

來ますと、例の通り驢馬の奴さん、又ひよいと水の中にひつくり返りました、所が、今度は鹽と違つて海綿と來たから堪らない、だん／＼水が浸み込んで重くなる許り、起き上つて見て、さすがの驢馬も、之には弱り入つて、閉口しましたとさ、

其四十九 病氣の鹿

一匹の鹿が病氣で、森の隅の靜な所に寝て居ますと、大勢仲間の鹿が見舞に來ました、しかし見舞に來たはよいが、病氣の鹿が、食べる爲めに取つて置いた食べ物を、皆で分けて食べて仕舞いました、それがために、此鹿はとう／＼死んで仕舞つた、病氣の故ではない、食物がなくなつて、悪友は利益よりも寧ろ害惡を持ち來ること多い

狐と鳥

いつも盗賊猫がやつて來ては、自家の鶏を捕つて行つて仕様がなから、よし／＼今に殺してやらうと思つて、牛肉の中に毒を入れて、庭に投げて置きました所が、鳥めが、屋根の上から、これは甘いものを見つけたと、喜んでくはへて木の上へ飛び上りました、すると、狐か其處へやつて來て、鳥め、甘い物を持つて居る、一番だまかして取つてやらうと思つて、極めて丁寧な調子で

狐「これは、神様の御使鳥さん、其後はまことにしばらく

鳥「あなたは、私を誰だと思ひですか

狐「左様、あなたはあの鷲さんでせう、いつも神様の所から、お使に來て、私の所へ甘いものを持つて來て下さる………」

これを聞いて、鳥は、さては狐は己を鷲と間違つ

たと見える、鶯だと思つて、あんなに丁寧にして居るに、ひょつとかして、鳥だと知れては、面白くあるまい、これは一番鶯になりすまして、氣前

併し、夫かといつて、此牛肉をやるのも惜いものだが、など考へて居ました、とうとう思ひ切つたと見えて、彼の牛肉を上から投てやつてい



やがて、むしやくと食べました。が、食べて仕舞ふか仕舞はない中に、毒が回つて来て、忽ちの中に、悶へ死にをしましたとぞ。

かにも鶯の様な風をして、大様に飛で行ました。狐は、鴉の馬鹿者奴が、甘くおれに欺されて、折角取つた甘い物を呉れたなと、打ち笑ひながら、

室内遊戯

(十) 盲人の裁判

一人が目を隠して居ると、残りの人を一人づつ、誰